

消化器外科部門を充実、緊急手術にも対応 外科医師2人を迎え、4月から新たな体制でスタート

川崎協同病院のスタッフに、このほど昭和大学から外科部門に渡邊良平、加藤礼の2人の医師が加わりました。これによって消化器外科部門が充実します。4月から消化器外科部長に就任した渡邊医師が、今後の外科、消化器外科の方針、体制などを説明します。

川崎協同病院では、これまで一般外科部門として和田浄史外科部長と岩水三穂医師の2人がその任にあたっていました。私と加藤医師が加わることで、緊急手術にも対応できるようになりました。また、最新の腹腔鏡および手術機器を導入し、ほぼ全ての症例を腹腔鏡手術で対応可能となりました。

さらに食道癌・胃癌・大腸癌・肝胆膵の癌、胆石・胆嚢炎、ヘルニア（脱腸）、痔核、急性虫垂炎などの治療では、精密検査・治療・相談などにも常時対応可能になりました。

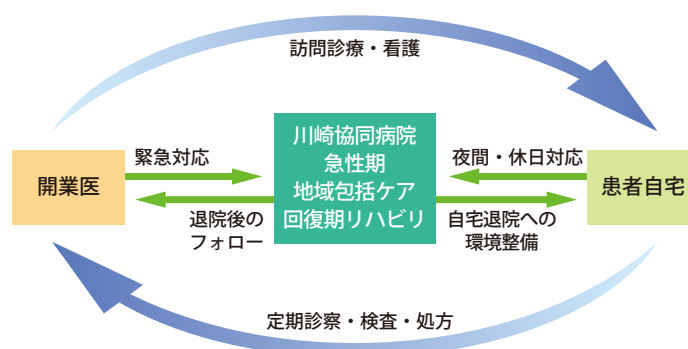
当院は、退院した後の機能低下により、リハビリが必要となった患者さんに対しても、入院リハビリ・栄養管理を行い、地域にお返しするといった取り組みをチーム（リハビリテーション・NST・嚥下チーム）で行っています。大学病院や中核病院での術後にリハビリテーションが必要になった患者さんや地域でのフォローアップ、緊急時対応もできるようになりました。

術後在院日数の目安

胃癌	7～9日
大腸癌	7～9日
胆石	1～2日
ヘルニア	1～2日
虫垂炎	1～3日



胃を全摘した手術後の跡



私は、今までがん診療を中心に、腹腔鏡手術を専門にしてきましたが、がん診療だけでなく外科治療でも「手術は、単なる通過点の一つ」と考えています。元気になる人もいれば、再発や機能低下で悩む患者さんもあるなかで、患者さんそれぞれの「考え・想い」に寄り添い、できる限り機能低下を起こさない、安全で低侵襲な治療を行い、患者さんが地域にもどれるように地域の開業医のみなさんとの密な病診連携を目指していきたいと考えています。（渡邊 良平）



消化器外科部長 渡邊 良平

（腹腔鏡手術・消化器外科一般）

2002年 東邦大学医学部卒業
 2002年4月 東邦大学医療センター大橋病院・外科入局
 2004年4月～2年間 東邦大学微生物・感染症学講座で外科感染症の研究
 2010年4月～2年間 がん研有明病院・消化器外科（胃外科・食道外科）
 2017年4月～1年間 フランス：ストラスブール大学、IRCAD France & IHU-Strasbourg 留学
 2019年4月 昭和大学病院 消化器・一般外科へ異動
 2020年4月 川崎協同病院・外科

日本臨床外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、医学博士、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（胃癌）、がん治療認定医、臨床研修指導医、緩和ケア研修会修了

今年度、川崎協同病院では 25 人の新たな職員を迎え入れました。医師 4 人をはじめ看護師 10 人、臨床検査技師 1 人、理学療法士 4 人、作業療法士 2 人、言語聴覚士 1 人、管理栄養士 1 人、臨床工学技士 2 人です。

25 人は、4 月 1 日から川崎医療生活協同組合の合同新入職員研修を受けました。医療生協の仲間として就職した新人は、医療福祉生協や民医連の理念・綱領を学び、医療生協の組合員の活動などを学習しました。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり一部のオリエンテーションは中止となりました。講義を受ける際にも全員がマスクをつけ、できる限り「ソーシャルディスタンス」を保った状態での開催となりましたが、緊張した雰囲気の中で、みんな真剣な面持ちで講義に臨んだあと、それぞれの職場につきスタートをきりました。

25 人のうち各職種から代表で 3 人の新人に、川崎協同病院で働くにあたっての意気込みなどをききました。



質問 ①この仕事を選んだ理由 ②川崎協同病院を選んだ理由 ③趣味や特技 ④地域のみなさんへ一言

たなか としまさ

田中 利昌 医師

- ①いのちは誰にとっても一番大切であり、それに深く携われる仕事だと思ったからです。医師を本格的に目指したのは、高校 2 年時のふじさきクリニックでの 1 日医師体験がきっかけでした。
- ②医学部 1 年生の時から、神奈川県民医連の奨学生として、様々な学習をしてきた中で、地域や患者さんのニーズに応える医療を行なっている川崎協同病院で医師としてのスタートを切りたいと思ったからです。
- ③学生時代にスターバックスでバイトをしていたので、コーヒーは大好きです。
- ④初期研修医として川崎協同病院の患者さんや、地域の方々の健康を守るよう、力を尽くしたいと思います。



じびき ゆうか

地曳 祐花 看護師

- ①母が看護師で幼い頃から看護師という職業は身近で憧れがありました。そして高校生の時、家族が病気になったことをきっかけに私も苦しんでいる人の支えになりたいと思い看護師を目指しました。
- ②川崎協同病院は幼い頃からお世話になっていて、職員のみなさんからとても親切にいただきました。また、「無差別平等」の理念に深く共感し、地域とともに健康を目指す取り組みに魅力を感じました。生まれ育ったこの川崎という街をもっと元気にしたいという思いから川崎協同病院を選びました。
- ③決して上手くはありませんが、ギターの弾き語りが好きで続けています。
- ④これからもっと地域を知って、地域のみなさんと一緒にこの街を元気にしていきたいです。



わたなべ ゆい

渡邊 由依 作業療法士

- ①高校生の頃に通院していた病院で、車いすに乗った若い男性を見かけました。その男性がとても楽しそうに話をしていて、障がいを持っていても、自分らしく楽しい生活を送っているんだと思いました。その時に人を笑顔にさせてあげられる手助けがしたいと思ったからです。
- ②病院見学をした際に、患者さんとの距離が近く親しみやすいと強く感じました。また、地域の方を大切にしていると伺い、地域性を踏まえつつ、患者さんに寄り添ったリハビリテーションをしたいと思ったからです。
- ③お笑いをよく観に行きます。大声で笑うことで元気をもらっています。
- ④地域の方々の気持ちに寄り添える作業療法士になりたいです。



1点を争うサッカーの醍醐味に夢中

川崎協同病院 リハビリテーション科 のざわ けんと 野澤 健人

川崎協同病院につとめて5年目、リハビリテーション科に所属し理学療法士をしています。日々の仕事を頑張れるのはサッカーのおかげだと思っています。サッカーをするのも、観戦するのも好きです。院内のフットサル部に所属していて、月に2回仲間と汗を流しています。また、Jリーグの横浜Fマリノスが好きでホームゲームは欠かさず観に行っています。ふだんは物静かなのですが、フットサルやサッカー観戦中は大はしゃぎしています。



歩行の訓練では足元に細心の注意を払う

サッカーを好きな理由は、ゴールの重要性が高いところ。1点でも取れば勝てる試合もあり、いかに1点を取るか守るかのスポーツです。だから点が決まるたびに観客全員が一喜一憂し会場がどよめきます。Jリーグのチームにはそれぞれファンであるサポーターがいて、皆が勝利のために応援しています。皆がゴールという目標に向かってひた走る、それがサッカーの醍醐味だと思います。

自分の好きなチームである横浜Fマリノスが昨年のJリーグで優勝を飾りました。あの時の感動は今も忘れられません。現在は新型コロナウイルスの影響でサッカー観戦も、フットサルもできませんが、当時の思い出を糧に今できることを精一杯頑張っていきます。



マリノス勝利後の一杯は最高!!

トピックス

入院セット(CS セット)が始まり、入院生活がより快適に!

— レンタルで利用 —

川崎協同病院では、衣類や日用消耗品など入院するさいに必要なものをレンタルできる入院セット(CSセット)を4月27日から導入しました。これによって患者さんが入院する際に必要となる衣類・紙おむつ類・タオル類・日用消耗品等が日額定額制レンタルで利用できるようになりました。

入院セットを利用することで、入院時の準備や洗い替え等を用意する必要がなくなり、ほぼ手ぶらで入院ができるようになり、患者・家族の負担が軽減します。また衛生環境の向上にもつながり、少しでも快適な入院生活ができるようになりました。

CS プランメニュー

A プラン

【衣類】

・浴衣・甚平(上下)・介護ねまき・ジャージ(上下)

【タオル類】

・バスタオル・フェイスタオル・おしぼり

B プラン

【タオル類】

・バスタオル・フェイスタオル・おしぼり



サービス品（日用消耗品）：上記プランを利用する人のみ必要に応じて無料で使えます。

・ヘアブラシ・コップ・BOX ティッシュ・吸い込み・歯ブラシ・
歯磨き粉・義歯ケース

・義歯洗浄剤・口腔ジェル・口腔スポンジ・口腔ティッシュ

*シャンプー ポディーソープ備え付け

紙おむつプランメニュー

■おむつプラン①

・常時おむつを使用

■おむつプラン②

・リハビリパンツを主に使用

■おむつプラン③

・一日一回程度の交換頻度で使用



*料金・契約方法等詳細については患者サポートセンターまでお問い合わせください。

坂戸診療所（川崎市高津区）は、東急田園都市線の高津駅から徒歩 8 分、同溝の口駅、JR 南武線の武蔵溝ノ口駅から徒歩 10 分のところにあります。1953 年に高津診療所として開設され、1988 年に川崎医療生活協同組合に加わり今に至ります。

坂戸診療所の診察室は 1 つで、川崎医療生協の中では たけうちひろや もっとも小さい診療所です。所長の竹内啓哉医師と 5 人の非常勤医師で外来診療と訪問診療を行っています。訪問診療の管理数は約 40 件になります。その他のスタッフは鈴木奈美師長を含め、看護師が 6 人（うち非常勤 3 人）、事務職が事務長を含め 5 人（うち非常勤 3 人）、その他訪問診療のドライバーが 3 人の合計 20 人（うち非常勤 14 人）で医療活動をしています。

長い歴史を持つ坂戸診療所は、地域に暮らす人の「かかりつけ診療所」です。通院している患者のなかには、子どもの頃からかかってきた人が数多くいます。診療所スタッフは、「最近様子が変わだな」とか「いつも来院する日に来ないな」などと患者さんの変化に気づくことができます。また、地域に暮らす組合員をはじめ住民からさまざまな情報が届くこともあります。

そうした時に、診療所スタッフは、患者さんの様子を見に行ったり、ケアマネジャーや家族に連絡して「そろそろ通院が難しそうだから訪問診療に切り替えましょう」などと、対応することができます。

小さいのでできることが限られる診療所ですが、その分スタッフの連携はスムーズで、また日頃から学習会を開催してケアマネジャーなどとの連携も図っているため、いざという時に柔軟に対応できます。竹内所長も、通院



できない患者さんがいれば、外来の合間や訪問診療中に臨時往診を行います。

坂戸診療所は、医療生協の組合員や地域の人に支えられています。待合室のイスには組合員さんが作った椅子カバーが掛けてあり、そのポケットには待ち時間を楽しむ本などが入れられています。また、狭い敷地のなかにも花壇が設けられ、組合員さんが手入れをしています。至るところに組合員さんのアイデアが生かされています。

川崎協同病院から15km離れた坂戸診療所は、緊急な入院が必要な場合は近隣の医療機関へ受け入れをお願いしています。また、急性期後に退院調整を行う後方病院とも連携を深めています。必要な場合には、川崎協同病院に入院することも可能です。

TEL 044-822-2710

